

Ⅳ. 児 童 の 困 り 感

3月当初は、戸惑いながらも長期休みの延長のような楽観的な感覚であったが、現在は、不安感が増している。**長期化なら、抜本的な方針転換、方策が必須。**

心の動揺は、学年の発達段階や家庭環境により、大きく異なり、一様な方策では対応できない。一人一人をていねいに見ていくことが重要である。

「■」 緊急課題

「→」 具体的な方策

「▽」 そのための問題

様々な困り感・・・7.5 割

長期化の
場合は

■現状の困り感は、氷山の一部である

→ 個別のケアを充実させる。

4月1週目 全家庭に担任が電話連絡
2週目 対面で教材等を受け渡し
3週目 三者面談・校長面談を実施

もしも、6月以降に再開の場合、
段階的なスクーリングにより、
個別指導を充実させる

- ▽ 現在の教員配置では限界がある。
- ▽ 教員の健康を守ることも重要である。
教員が倒れたら、すべてが無になる。

在宅学習・個別指導を実施

■週1回以上は、担任と対面で会話

→ 次のようなシミュレーションを想定

感染拡大や児童一人一人の実態に応じて多様な展開が考えられるが、例えば・・・

Level. 1 1班2人 週1日 計1時間の個別指導
Level. 2 1班4人 週1日 計2時間の小集団指導
Level. 3 1班8人 週2日 計4時間の小集団指導
Level. 4 1班12人 週3日 計6時間の中集団指導
Level. 5 1班16人 週4日 計8時間の中集団指導
Level. 6 11班20人 週5日 計10時間の集団指導

→ 教員は、当面週2～3日の勤務とする。

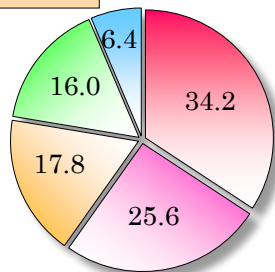
感染拡大に努める、在宅勤務で、教材作成、個別の添削、評価など、新たな開発に取り組む。

【 児 童 の 困 り 感 】

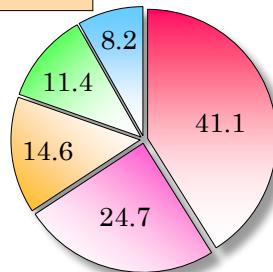
友だち、学習、運動、外遊び …… 8割

○どの項目も同じように、8割以上の児童が、困り感を示している。
○どの項目とも、「当てはまらない」と回答した児童は、わずかである。

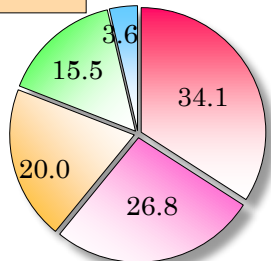
友 だ ち



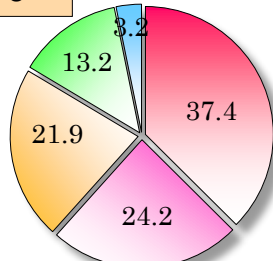
運 動



学 習



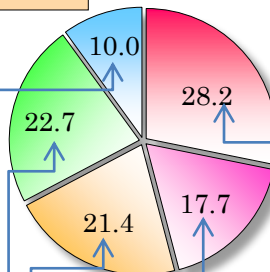
外 遊 び



ス ト レ ス …… 7割

○7割がストレスを感じている。
○内心は、数値では読めない。

ス ト レ ス



- とても当てはまる
- 当てはまる
- やや当てはまる
- あまり当てはまらない
- 当てはまらない